

授業概要

学校図書館が担う学習センターとしての機能を十分に発揮できるようにする。そのためには、読書学習の実践的な理論を身につけておく必要がある。様々な読書活動を体験しながら、どのような力を育成することができるか話し合い、学習指導としての気づきを増やしていくことにする。

読書活動の豊かさや奥深を味わいながら、学校図書館の機能をさらに追究できる可能性を求めていきたい。

授業計画

第 1 回	学校図書館司書に求められることと司書教諭の仕事、読書の意義
第 2 回	学校での読書活動と読書指導・教育施策と読書
第 3 回	学校図書館の目的と読書能力の発達
第 4 回	読書力の発達過程と図書の種類
第 5 回	読書環境の整備
第 6 回	子どもと本とを結び、ストーリーテリングの活動
第 7 回	子どもと本とを結び、読み聞かせの活動
第 8 回	子どもと本とを結び、ブックトークの活動
第 9 回	子どもと本とを結び、ビブリオバトルの活動
第 10 回	読書指導における、本のしおりづくり
第 11 回	読書指導における、本の帯づくり
第 12 回	読書指導における、本のPOPづくり
第 13 回	読書感想画の学習指導
第 14 回	読書交流会の学習指導
第 15 回	テーマ読書交流の展開と可能性
第 16 回	レポート提出 まとめ

到達目標

学習としての読書指導のねらいと実際を捉えて、様々な読書活動をコーディネートしようとする。

読書指導の方法を体験しながら、読書学習のよさに着目して指導方法の工夫を学ぼうとする。また、生涯読書に繋がる大事な言語活動として魅力ある学習を引き出す活動の工夫を行うことができる。

履修上の注意

教員をめざす者として遅刻をしないようにする。自分なりの感じ方や見方を出し合いながら、様々な考えを幅広く受け止め、自分の感性をさらに豊かにしていく姿勢で臨むこと。

予習・復習

授業で扱った読書作品に関連・発展する作品等、調べて次時につなげる取り組みを行う。それが復習となり、予習につながる。

評価方法

各回における授業中の話し合い活動への参加状況（30%）授業中の振り返りおよび提出物（40%）最終レポートの提出と内容（30%）

テキスト

必要に応じて資料を配付する。なお、テキスト、参考文献等については、授業内で指示する他、適宜推奨図書を紹介したり、必要な資料を配布したりする。

- ・教科書名：
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年（ISBN）：